

## 第6学年 国語科学習指導案

日 時：平成20年10月7日（火）5校時

児 童：6年1組 男子16名 女子22名

授業者：皆川 晃宏

### 1 テーマ

自分の思いを効果的に表現する子どもを育成するための指導の在り方  
ー目的に応じたテキストの比べ読みをとおしてー

### 2 単元名 「おすすめの一冊」～宮沢賢治作品の魅力を伝えよう～

### 3 教材名

#### (1) 中核教材

「やまなし」 宮沢賢治作 （光村図書 6年下）

#### (2) 補助教材

ア 宮沢賢治童話作品

イ 授業者自作教材（推薦文のモデル）

### 4 単元について

#### (1) 児童観

ア 既習の学習経験

児童は、3年生の「三年とうげ」の学習で、本の帯作りを通して、「あらすじ」や「登場人物」を紹介する学習を行っている。また、4年生の「白い帽子」の学習では、他のあまんきみこ作品を読み、本のおすすめカード作りをすることで、「あらすじ」や「登場人物の人柄」を紹介する学習を行っている。さらに、5年生では、「千年の釘にいどむ」の学習で、ドキュメンタリーを読み、本の紹介文作りを行った。その中で、「あらすじ」や「心に残る場面」を紹介する学習を行っている。

イ つけたい力

本単元でつけたい力は、「必要な情報を本や文章の中から見つけ出し、取捨選択して活用する力」である。この力を児童につけさせるために、児童に推薦文を書かせる。「推薦」とは、「よいものとして人にすすめる」ことである。「よいものとしてすすめる」観点とは、作品によって当然違う。「文章表現・構成」「作品のテーマ」「登場人物の描き方」「筋の展開」など様々である。

様々な観点の中から、根拠を明確にしなが児童自身が作品にふさわしい要素を選び、推薦文という様式で活用することができるようにしたい。

#### (2) 教材観

中核教材「やまなし」は、「五月」と「十二月」の対比を通して、命や自然の豊かさについて伝えようとした作品である。作者宮沢賢治独特の比喩表現、色彩表現、擬態語・擬声語が多く使われており、それらの言葉から場面のイメージやテーマを想像し、感じ取ることができる。また、「五月」と「十二月」の世界を対比してみることで、表と裏のメッセージの違いなど対照的に描かれていることが分かる。これらのことから、自分なりに感想をもち、その作品のよさを読み味わうことができる教材である。

補助教材

宮沢賢治の童話

「いちょうの実」「月夜のでんしんばしら」「双子の星」「雪渡り」「オッペルと象」

「注文の多い料理店」「なめとこ山の熊」 他

推薦文のモデル学習として授業者自作の「推薦文」と「感想文」を提示する。モデル文は、宮沢賢治童話作品「いちょうの実」を題材として作成する。この作品は、賢治の童話作品の中では、比較的短く内容もとらえやすい。また、いちょうの母子の気持ちや様子が、会話文や情景描写から伝わってくる作品である。その特徴をいかし、具体的な要素としてモデル文に書き表すことが

できる。

### (3) 指導観

まず、児童に「宮沢賢治童話作品を読みたい」という思いをもたせたい。そのために、単元のはじめに、担任と司書教諭が、ブックトークを行いながら賢治の童話作品を子ども達に紹介する。そして、賢治作品の中では、比較的内容の容易な「いちじょうの実」の読み聞かせを行い、感想を交流させる。また、宮沢賢治の童話作品コーナーを設置し、並行読書を開始させる。

学習計画を立てる際は、本の紹介活動として、どんな方法（様式）を経験してきたか、また紹介した内容（要素）はどんな事柄だったかを振り返らせ、児童に既習事項を自覚させる。同時に、学習していない要素についても意識させる。

モデル文を比較しながら推薦文の特徴をとらえる学習では、要素にサイドラインを引かせることで、二つの文の要素の違いについて考えさせたい。また、これまでの本の紹介活動では学習していない「作品を評価する言葉（評価語彙）」をモデル文に入れ、評価語彙を入れることの効果についても考えさせたい。

「やまなし」を読み取る際には、「推薦文を書く」ということを意識させる。つまり、要素を意識して読み取るということである。「やまなし」の世界を想像豊かに読むことはもちろん大切なことではあるが、表現や構成のどこが優れているのか、評価しながら読む活動を児童にさせることが重要である。そのような読みをしていないと、推薦文を書くことはできないからである。

また、推薦文を書くときには、言語意識を明確にもつ必要がある。五つの言語意識を以下のように考えた。

- ・相手意識…全校児童、学習祭にいらしたお客様、区立図書館を訪れる方。
- ・目的意識…自分が好きな宮沢賢治の作品の魅力を伝えたい。
- ・場面意識…学校の図書室、学習祭の展示、区立図書館。
- ・方法意識…推薦の文章にまとめる。
- ・評価意識…相互評価。推薦文を読んだ人、自分が推薦した本を読んだ人の感想・評価。

図書館をおとずれた人が、長い推薦文を読むとは考えにくい。字数は、200字程度に限定すべきであると考え。構成の要素もしぼる必要がある。作品を読むときに、「この作品のよさ」を伝えるためには、どの要素なのか常に児童に意識させながら読ませていきたい。また、「評価語彙表」を児童に提示し、評価語彙を意識的に使わせたい。

## 5 単元の指導目標

国語への 関心・意欲・態度	・目的を明確にもって、本や文章を進んで読もうとしている。
読むこと	・推薦文を書くために必要な情報を本や文章の中から見つけ出し、取捨選択して活用することができる。(読オ)
言語事項	・語感や言葉の使い方に関心を持ちながら作品を読んだり、書いたりすることができる。(言ウ(エ))

## 6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・推薦文を書くために友達と協力して計画を立てようとしている。 ・推薦文を書くために、本や文章を進んで読もうとしている。	・推薦文を書くために必要な内容について自分の考えをもち、必要な情報を本や文章の中から見つけ出し、自己活用している。	・語感や言葉の使い方に関心をもって作品を読んだり、推薦文を書いたりしている。

7 単元の学習計画（全11時間）

段階	時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準と評価方法
つかむ	1	<p>宮沢賢治の作品について知ろう。</p> <p>①ブックトークを聞き、宮沢賢治童話作品を知る。 ②「いちちょうの実」の読み聞かせを聞き、感想を交流する。</p>	<p>○担任と司書教諭の二人でブックトークを行い、なるべくたくさん作品を紹介する。 ○興味をもった作品の並行読書を始めさせる。</p>	<p>関 宮沢賢治の童話作品に興味をもっている。 [観察・ワークシート]</p>
	2	<p>これまでの学習をふり振り返りながら、学習の計画を立てよう。</p> <p>①これまでの学習をふり振り返り、既習した読書紹介活動の方法と紹介した内容について整理する。 ②宮沢賢治作品の魅力伝えるために、推薦文を書くというめあてをもち、学習計画を立てる。</p>	<p>○既習の読書紹介の方法と内容を簡単にふり返ることができるようなワークシートを提示する。 ○五つの言語意識を明確にもたせることで、活動の見通しを児童にもたせる。</p>	<p>関 読書紹介の基本的な要素について既習事項を思い出している。 [ワークシート] 関 言語意識を明確にして、活動の見通しや具体的な手だてを考えている。 [発言・ワークシート]</p>
ふかめる	3 本時	<p>二つの文章を比べて読み、推薦文とは何か考えよう。</p> <p>①二つの文章を比べて読み、違いを整理する。 ②どちらの文章が推薦文にふさわしいか根拠を明確にしながら話し合う。 ③推薦文の特徴をとらえる。</p>	<p>○二つの文章にサイドラインを引かせながら、要素の違いを考えさせる。 ○モデル文に「作品を評価する言葉」を入れ、児童に意識させる。 ○評価語彙表を配布する。</p>	<p>読 二つの文章を比べて読み、どちらが推薦文にふさわしいか根拠を明確にして自分の考えをもち、推薦文の特徴を理解している。 [発言・ワークシート]</p>
	4	<p>「やまなし」を読んで、全体をつかもう。</p> <p>①ストーリーマップを用いて、「登場人物」や「あらすじ」をおさえる。 ②推薦文を書くために「やまなし」をどのように読んでいくか、計画を立てる。</p>	<p>○「やまなし」を読み取ったあとに、推薦文を書くという見通しをもたせる。</p>	<p>読 「登場人物」や「あらすじ」をとらえている。 [発言・ワークシート]</p>
	5	<p>「やまなし」の文章表現の工夫について話し合おう。</p> <p>①表現の効果について自分の考えを書く。 ②グループ、全体で表現の効果について交流する。 ③表現の効果について、評価語彙を用いながらまとめる。</p>	<p>○比喩表現や色彩表現、擬態語・擬声語などの効果を考えさせながら読ませる。 ○推薦文にまとめることを意識させ、評価語彙を用いながらまとめさせる。</p>	<p>読 表現が工夫されているところを見つけ、どのような効果があるのか、評価語彙を用いて考えている。 [発言・ワークシート] 言 語感や言葉の使い方に関心をもって作品を読んでいる。 [ワークシート]</p>

	6	<p>「やまなし」の文章構成の工夫について話し合おう。</p> <p>①「五月」と「十二月」の違いを叙述をもとに考える。          ②「五月」と「十二月」が対比的に描かれていることの効果について話し合う。          ③対比的に描かれていることの効果について、評価語彙を用いながらまとめる。</p>	<p>○「五月」と「十二月」の違いを、情景描写、「かわせみ」と「やまなし」の比較からとらえさせる。          ○推薦文にまとめることを意識させ、評価語彙を用いながらまとめさせる。</p>	<p><b>読</b> 「五月」と「十二月」を対比的に描くことについて、どのような効果があるのか、評価語彙を用いて考えている。          [発言・ワークシート]  <b>言</b> 語感や言葉の使い方に関心をもって作品を読んでいる。          [ワークシート]</p>
	7	<p>「やまなし」のテーマについて話し合おう。</p> <p>①叙述を根拠に「やまなし」のテーマについて自分の考えをもつ。          ②「やまなし」のテーマについて、考えを交流する。          ③テーマについて、評価語彙を用いながら自分の考えをまとめる。</p>	<p>○作品の題名もなっている「やまなし」は、何を象徴しているのか考えさせる。          ○推薦文にまとめることを意識させ、評価語彙を用いながらまとめさせる。</p>	<p><b>読</b> テーマについて、叙述を根拠に、評価語彙を用いて考えている。          [発言・ワークシート]</p>
	8	<p>「やまなし」の推薦文を書き、交流しよう。</p> <p>①要素を考えながら、「やまなし」の推薦文を書く。          ②グループで相互評価し合う。          ③相互評価したことをもとに、推薦文をリライトする。</p>	<p>○要素チェックシートと前時までのワークシートを活用しながら、どの要素で書けばよいか考えさせる。          ○相互評価カードをもとに観点にそって評価し合う。</p>	<p><b>読</b> 推薦する要素を見つけ、叙述を根拠に自分の考えをもち、評価語彙を用いて推薦文に表している。          [発言・ワークシート]  <b>言</b> 語感や言葉の使い方に関心をもって推薦文を書いている。          [ワークシート]  <b>関</b> グループで相互評価し、よりよい推薦文を仕上げようとしている。          [ワークシート]</p>
ひろげる	9 10	<p>自分が選んだ宮沢賢治の作品の推薦文を書き、交流しよう。</p> <p>①要素を考えながら、自分が選んだ宮沢賢治作品の推薦文を書く。          ②グループで相互評価し合う。          ③推薦文を清書する。</p>	<p>○相互評価カードをもとに観点にそって評価し合う。</p>	<p><b>関</b> グループで相互評価し、よりよい推薦文を仕上げようとしている。          [ワークシート]</p>
	11	<p>学習をふり返ろう。</p> <p>①フィードバックされた反応をもとに、学習の成果をふり返る。          ②これからの読書生活についてのめあてをもつ。</p>	<p>○感想カードを作成させる。そして、それを展示する場所に置き、本を読んだ感想や、推薦文を読んだ感想を書いてもらい、それをもとに学習の成果をふり返らせる。</p>	<p><b>関</b> 学習を通して読書生活をより豊かにしていこうとしている。          [ワークシート]</p>

## 8 本時の学習

### (1) 本時の目標

○二つの文章を比べて読み、どちらが推薦文にふさわしいか根拠を明確にして自分の考えをもち、推薦文の特徴を理解することができる。

### (2) テーマに関わる授業の視点について

本時は、推薦文という様式を使って、「自分の思いを効果的に表現する」ための方法を学ぶ授業である。推薦文で「自分の思いを効果的に表現する」ためには、まず、推薦文の特徴を理解する必要がある。そのために、授業者自作のモデル文を「比べて読む」のが本時である。一つのモデル文を提示するだけでは見えないものが、二つのモデル文を比較することにより明確になると考える。児童に自分の考えを書かせたり、グループで話し合わせたりするときにも、「Aの文章は○○、それに対してBの文章は○○。」というように、常に、「比べる」ことを意識させたい。

### (3) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価 (評価方法)
導入 3分	1 本時の進め方を知る。 ・自分の考えをもち。 ・グループ・全体で話し合う。 ・学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">二つの文章を比べて読み、推薦文の特徴について考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時において学習することを明確に示す。</li> </ul>	
展開 35分	2 二つのモデル文を比べて読む。 (1) どちらが推薦文にふさわしいか、根拠を明確にして自分の考えをもち。(個人) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>【紹介の要素】</b>              ①登場人物の紹介 ②あらすじ              ③心に残る言葉や文の引用              ④文章表現のよさ ⑤構成のよさ              ⑥作品のテーマ ⑦読んでほしい人              ⑧読んでほしいとき              ⑨作者の紹介 ⑩本を評価する言葉           </div> (2) 推薦文としてふさわしいのはどちらの文章なのか、根拠を明確にして話し合う。(グループ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             ・A…③引用 ④表現のよさ ⑥作品のテーマ              ⑦読んでほしい人 ⑩本を評価する言葉              ・B…②あらすじ ・感想           </div> (3) グループで話し合ったことを出し合いながら、推薦文としてふさわしいのはどちらなのか話し合う。(全体) 3 推薦文の特徴について話し合う。(全体) (1) 推薦文にはどのような特徴があるか話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">             ・要素…作品のよさを紹介              ・本を評価する言葉           </div> (2) 「評価する言葉」の効果について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習で確認した要素をもとに、どんな要素が入っているかサイドラインを引かせる。</li> <li>文章Aと文章Bを比較しながら発表することを意識させる。</li> <li>結論がまとまらないグループから発表させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ・モデル文を「比べて読む」。              ・比べながら自分の考えを発表する。           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ・「自分の思いを効果的に表現する」ための方法を学ぶ。           </div>	〈評価〉 二つの文章を比べて読み、どちらが推薦文にふさわしいか根拠を明確にして考えを書くことができる。 [発表・ワークシート]  〈評価〉 推薦文の特徴について、自分の考えをもちることができる。 [発表・ワークシート]
終末 7分	3 本時の学習をふり振り返り、次時への見通しをもつ。 (1) 本時の学習を振り返り、自己評価をする。 (2) 次時の学習への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>推薦文の特徴がわかったか自己評価させる。</li> <li>次時は、「やまなし」を読んでいくことを知らせる。</li> </ul>	

【おすすめの一冊】宮沢賢治作品の魅力伝えよう

課題

二つの文章を比べて読み、推薦文とは何かを考えよう。

【文章A】

【文章B】

「さよなら、おっかさん。」この作品は、いちようの実の子ども達の会話が魅力的で印象に残ります。母親の木を気づかたり、お互いを思いやったりする子ども達の様子が会話から感じられ、心があたたかくなります。

新しい未来に旅立つ子どもたちの希望と不安、それを見送る母親の愛をえがいた作品。今、新しいことに挑戦している人は、子ども達の思いに共感し、作品にどんどん引き込まれていくはずですよ、読んでみて下さい！

母親の木は、旅立ついちようの実の子ども達のために、はつか水などを準備するところがやさしいなと思いました。母親の木からはなれ、しかも、みんながばらばらになるなんて、いちようの実の子ども達は、さびしくないのかなあと思いました。私だったら、さびしくて不安で、泣き出してしまおうと思います。

いちようの実の子ども達は、最後にいつせいに旅立ちます。母親の木は、子ども達がいなくなつて、すごく悲しかったと思います。

〈紹介の要素〉

- ①登場人物の紹介
- ②あらすじ
- ③心に残る言葉、文の引用
- ④文章表現のよさ
- ⑤文章構成のよさ
- ⑥作品のテーマ
- ⑦読んでほしい人
- ⑧読んでほしいとき
- ⑨作者の紹介
- ⑩本を評価する言葉

(理由)

A

・要素③④⑥⑦⑩  
 ……作品のよさを  
 本を評価する言葉…

「ぜひ、読んでみてほしい」  
 ……読みたくなる  
 ……おすすめの1冊。

B

・要素②  
 ・感想文のよさだ  
 ・自分の感想だけで  
 ……すすめていない。

(まじめ)

推薦文とは……